

地方創生と 森林・林業行政の方向性



成熟する北海道のカラマツ人工林



地方で加工度の向上を



伐期を迎える西粟倉の人工林



地方にも豊かさを

少子高齢化社会の進行する中、農山村はますます厳しい環境下に立たされており、今後の地方創生、森林・林業の振興のためには、地方自治体の役割がますます重要となっています。

そこで、地方創生を踏まえ、森林・林業について、それぞれの自治体でどのように取り組まれているかを事例報告してもらいながら、その方向性と課題について議論します。

日時

6/13 (土曜日)
13:00 ~ 17:00

会場

新木場ホール

新木場駅徒歩7分(新木場タワー1階)

参加費・申込方法

申込締切り **6/5** (金)

シンポジウム **無料** 懇親会 **3,000円**

お申込みはインターネットで受け付けます。

<https://eventregist.com/e/forestry150613>

基調講演

地方創生と森林・林業 宇都宮大学農学部 森林科学科教授 **山本 美穂**

事例報告

全国的事例紹介 三菱UFJリサーチ&コンサルティング 環境・エネルギー部主任研究員 **相川 高信**

岐阜県の取り組み 岐阜県林政部県産材流通課長 **長沼 隆**

豊田市の取り組み 愛知県豊田市産業部森林課主査 **鈴木 春彦**

中川町の取り組み 北海道中川町産業振興課産業振興室主任 **高橋 直樹**

民間の取り組み事例 岡山県 (株)西粟倉・森の学校 代表取締役 **牧 大介**

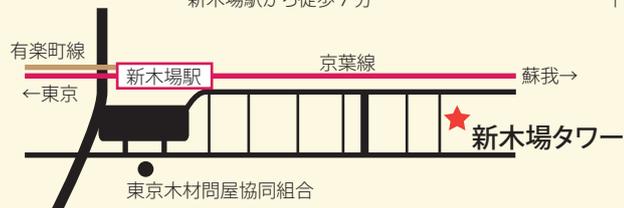
パネルディスカッション

地方創生と森林・林業行政の方向性

コーディネーター 一般社団法人 日本森林技術協会 理事長 **加藤 鐵夫**

会場アクセス

JR京葉線・地下鉄有楽町線・りんかい線
新木場駅から徒歩7分



主催 森とむら活性化研究会&(公社)国土緑化推進機構
後援 林野庁、(一社)日本森林技術協会
(特非)木材・合板博物館

お問合せ先 森とむら活性化研究会事務局
〒179-0074 東京都練馬区春日町 1-7-19
TEL/FAX 03-3998-8678 **E-mail** tsuabe@coral.plala.or.jp

山本 美穂



1966年(丙午)熊本市生まれ、焼酎お湯割りと九州人の熱い吐息の中をかいくぐって成長しました。企業勤めの後、通常より3年遅れで九州大学大学院農学研究科修了、北海道大学大学院農学研究科助手を経て、2004年に宇都宮大学に助教授として赴任、一児の母となり地方創生の意味を考えています。2014年4月より現職。

相川 高信



1978年神奈川県生まれ。2003年京都大学大学院農学研究科修了(森林生態学)。2004年より現職。専門は、森林・林業政策、バイオマスエネルギーなど。著書に「先進国型林業の法則を探る」「木質バイオマス事業 林業地域が成功する条件とは何か」。森林を中心とした自然生態系について、自然科学と社会科学、利用と保全、現場と学術の間に身を置き、統合化に挑戦中。コンサルティング業務の実施にあたっては、地域の皆さんとともに考え、地域の学習を促すアプローチを重視している。森林・林業再生プラン人材育成検討委員会委員。

長沼 隆



1960年岐阜県生まれ。1983年名古屋大学卒業後、岐阜県職員採用。2006年の「岐阜県森林づくり基本条例」の制定、「岐阜県森林づくり基本計画」の策定に携わり、地域が主体となった森林づくり組織「市町村森林管理委員会」の設置等を促進。2008～2009年度の2年間、日本最大の森林面積を持つ高山市の林務課長を務め、独自の市町村森林整備計画の策定を主導。地方の立場から、森林資源の有効活用による持続可能な森林づくりの実現を目指して、森林・林業行政のあり方を探求。技術士(森林部門)、地域森林総合監理士(フォレスター)。

鈴木 春彦



2000年、北海道大学農学研究院修士課程を修了。専攻は森林政策学。愛知県豊田市と北海道標津町において市町村森林行政の最前線で働く。仕事のテーマは、ローカルを軸としたグローバルへの展開、実務と科学の融合、歴史性の探求など。論文に「矢作川の流送～木を運んだ川への道」「豊田市の森と人の文化史」(豊田市森づくり白書)、「流域管理にむけた地域の取り組み」(林業経済)、「市町村における森林マスタープラン策定の実践と課題」(北方森林研究)など。技術士(森林部門)。地域森林総合監理士(フォレスター)。

高橋 直樹



1979年北海道中川郡美深町生まれ。北海学園大学卒業後、2003年中川町へ就職、2008年から町林務担当になる。2010年北海道北部の森林・林業を考える研究グループNFM(north forest meeting)を設立。2013年准フォレスター研修修了。日本五大家具産地のひとつである旭川家具と連携し、広葉樹資源を核としたサプライチェーンの構築に取り組んでいる。北海道大学研究林北管理部との間に包括連携協定を締結し、人的交流や技術交流、共同での木材供給を進め、森林経営の持続性や生物多様性を重視している。

牧 大介



1974年京都府生まれ。京都大学大学院(森林生態学研究室)修了後、三和総合研究所(現在三菱UFJリサーチ&コンサルティング)を経て2005年アマタ持続能経済研究所を設立し所長に就任。主に農山漁村における新規事業の企画・プロデュースを手掛ける。2009年2月に(株)トビムシ設立に参画し取締役就任。現在は2009年10月に岡山県西粟倉村において地域商社である(株)西粟倉・森の学校を村役場と(株)トビムシの共同出資により設立し、代表取締役に就任。

加藤 鐵夫



1970年、名古屋大学農学部林学科卒業後、農林省(農林水産省)入省。2001年、林野庁長官就任。特に、政策目標を「林業の生産増大」から「森林の多面的機能の持続的発揮」に転換した新しい「森林・林業基本法」の制定(2001年)に努力。2003年林野庁退官。2008年10月より、「持続可能な森林経営研究会」を主宰。2009年末には、「持続可能な森林経営のための30の提言」を公表。2011年から現職に就任。